

緑の相談所だより

— 23号 —

{ 8.9月号 ~1993.7.31~ 発行・編集 旭川市緑の相談所 }

講習会のお知らせ

秋の鉢物の管理

内容 シャコバサボテン、ポインセチア、シクラメン、デンドロビウムなど

日時 8月22日(日)午後1~3時

講師 旭川市緑の相談所相談員

村田 正一

定員 50名 参加料 無料

庭の整理、秋の防除、冬囲い

内容 病菌、虫の越冬個体を防除するための庭整理と使用する薬剤

日時 9月12日(日)午後1~3時

講師 旭川市緑の相談所相談員

小島 博昭

定員 60名 参加料 無料

園芸用土のいろいろ

赤玉土→関東地方で産出される火山灰土、用土として使う。

鹿沼土→多孔質で軽く保水力に富む酸性の火山灰土。主にサツキ、ツツジ類挿し木用土として使用。

腐葉土→常緑広葉樹の落葉を腐熟させたもので他の用土と混ぜて使う。

ピートヌ→繊維質が多く排水、通気性に富むので鉢土用土として使う。

ハミユライト→蛭石を砕いて高温で処理したものの。挿し木、その他に使う。

水苔→湿地に生える蘚類、主に洋ラン用土として使う。

気軽に楽しむ盆栽

手軽に作り、気軽に楽しむ豆盆栽、小盆栽、寄せ植え盆栽について

日時 9月26日(日)午後1~3時

講師 北海道旭川農業高等学校教諭

本郷 仁氏

定員 50名 参加料 無料

お申し込み・お問い合わせ

旭川市緑の相談所(神楽岡公園内)

865-5553

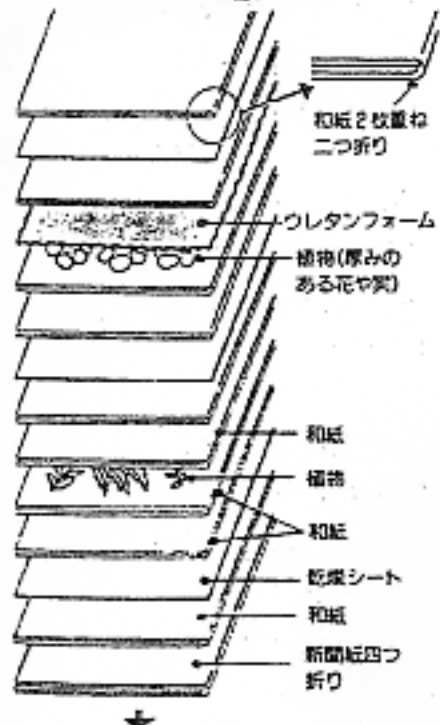
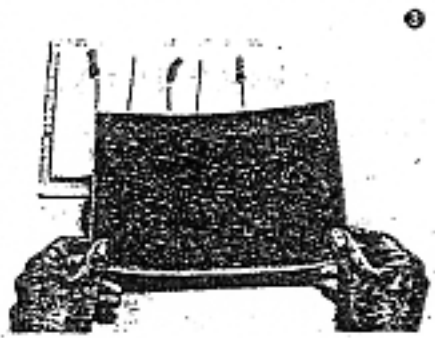
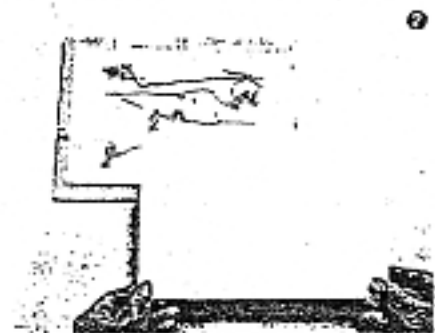
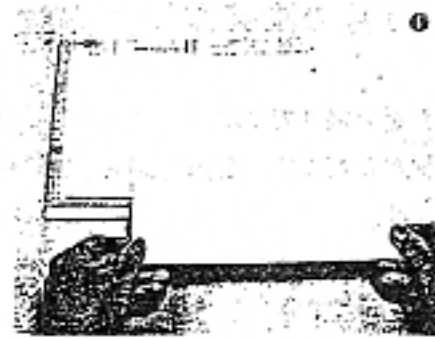
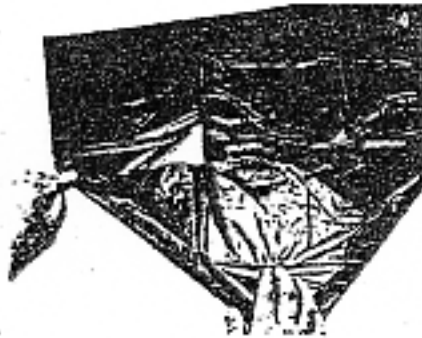
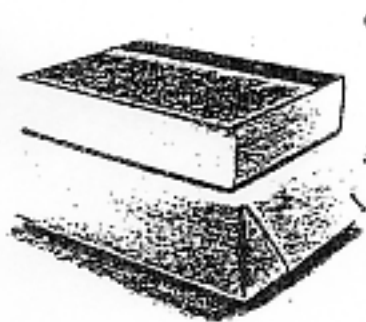
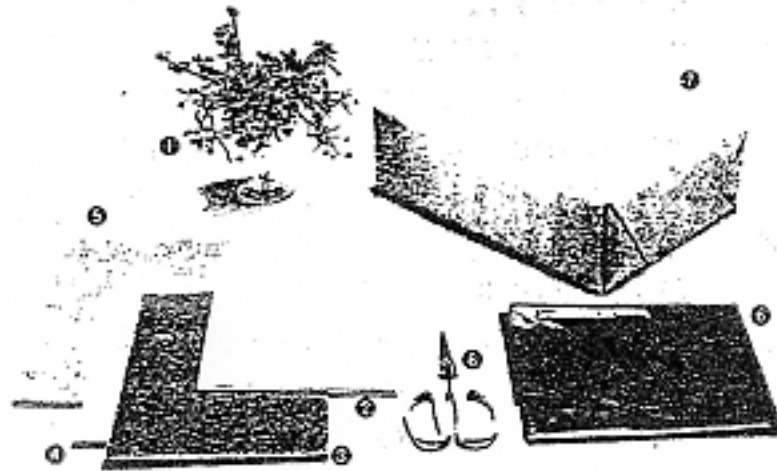
押し花しましゅう

「NHK図人百科 小さな花の押し花PART2」より

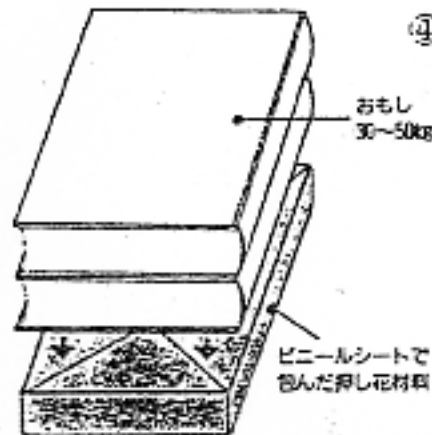
用意するもの

- ①植物 ②乾燥シート (23.5×16cm) ③ウレタンフォーム (包装用シートでも代用できる)
- ④和紙 (普通用の料紙でよい) ⑤新聞紙 ⑥ビニールシート ⑦おもし (30~50kgのもの)
- ⑧はさみ

乾燥シートは再生して使えます 一度プレスに使用した乾燥シートは水けをたくさん含んでいます。使ったあとは高温のアイロンでバリバリになるまで熱を加えて乾燥させます。



ビニールシートで包み、おもしをのせる



①たたんだ新聞紙の上に、和紙、乾燥シート、和紙の順に重ねる。

②①の上に和紙をのせ、植物を重ねないように平均に並べる。そして和紙をのせる。

③厚みのある花や実をプレスするときは、和紙の代わりにウレタンフォームを使うとよい。

④全体をビニールシート (黒いものが光を通さなくてよい) で包み、外からの湿気を防ぐ。

⑤30~50kgくらいのおもしをのせて、4~5日間風通しのよい場所におく。

8月の園芸作業

まだ暑い盛りですが、お盆を過ぎると急に秋の気配がたどよい、日照時間も次第に短くなってきます。

気温は安定している時期なので、熱帯、亜熱帯性の植物は戸外で元気よく育っています。

○アマリリス

夏の間は日当たりのよい戸外で育てます。晴天の日は朝夕灌水してください。肥料は固形肥料の置き肥と、週1回千倍の液肥を施してやります。鉢はなるべく小さめで育てますが、球根が太って根も張っているようでしたら、一回り大きな鉢に根をくずさずに入替えてやります。黄ばんだ葉は切り取っておきましょう。

○シクラメン

涼しくなると元気を回復してきますから、8月下旬から9月上旬にかけて植え替えます。葉がなくなった株でも新芽が出てきたら、古土を落とし新しい用土で植え替えます。

葉がたくさん付いた元気のある株は根土を落とさず一回り大きな鉢に入替えてください。用土は赤玉土と腐葉土を半々に混ぜたものでいでしょう。3週間後から肥料も与えます。できるだけ日光に当ててください。

○シャコバサボテン、デンドロビューム

肥料は8月上旬で打ち切ってください。遅くまで効くと花芽が着きにくくなります。新芽の成長が続いているものは液肥を与えます。

○シンビジューム

先月に引き続き陽光下の雨ざらしで育てます。水は毎日十分与えてください。今までの葉数が増える成長から、これからバルブが太る成長になります。置き肥は20日に1回くらい間隔を短く与えます。液肥はこれまで通り週1回ずつ与えてください。

9月の園芸作業

朝夕めっきり涼しくなり、日照時間も短くなってきます。季節の変化に合わせた管理がいろいろとあります。

☆花芽を付ける管理

・シャコバサボテン、カランコエ、ポインセチヤなどは短日性植物といって、夜の暗い時間が長く、明るい時間が短くなると花芽をもつ性質があります。

○シャコバサボテン、カランコエ

肥料気がなくなり、10度前後の低温、暗い時間が12時間以上、鉢土が乾き気味になっていると成長が止まり、花芽が出来てきます。

外に置くなら、日光は当たって雨の当たらない軒下にも置いてください。夜は電灯の明かりにあたらぬようにしておけば花芽ができてきます。室内に置いてあるなら暖房のない部屋で短日処理をしてください。短日処理はポインセチヤと同じですが3週間くらいです。

○ポインセチヤ

9月上旬には室内へ取り込んでください。なるべく温かく日光の良く当たる所に置きます。夜、電灯の明かりに当たると赤くなりませんから短日処理をします。夕方5時ころから翌朝8時ころまでダンボールの箱をすっぽりとかぶせ、暗い時間を長くしてやります。赤い苞が出てくるまで続けてください。1月半以上はかかります。途中で止めずに続けてください。

○デンドロビューム

花芽を付けるためには、ミズゴケがカサカサになるまで乾かすこと、10度前後の低温に合わせる必要があります。霜が降るころまで軒下で日光に当てておきましょう。室内に取り込んでもやや低温の所に置きます。花芽がふくらんできたらし少し温かい所に移してください。



◎剪定

剪定作業は樹木を若返らせて元気（樹勢の低下を防ぐ）にしたり、形をととのえるための作業です。

時期はずれの剪定や必要以上の強い剪定をすると、樹木の生活サイクルが狂って一時的にでも生育が止まったり、来年の生育、芽出しに影響したりします。

剪定にも適期があります。正しい知識で適期に行いましょう。プロの真似をせずに自分でできる範囲内で作業をすることが大切です。

原則的な剪定の適期は次の通りです。

針葉樹類（常緑）

イチイ、マツ類・・・春＝3月～6月くらいまで。

広葉樹類（落葉）

モミジ類・・・秋＝落葉してから雪の降るまでの休眠期に入ってから。

ツツジ類・・・春＝花が終わりかけたらすぐにおこなう。

（注）7月中旬以降の剪定は来年の花芽をとることでありますので、剪定はおこなわないこと。

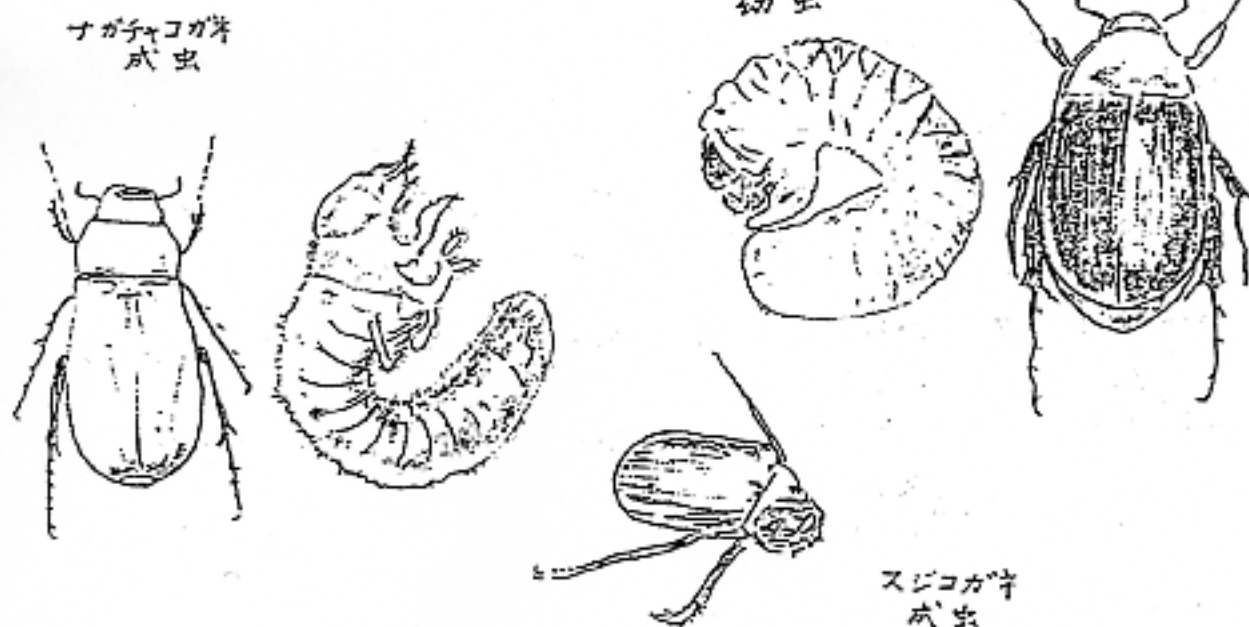
フジ、ブドウ・・・10月～11月＝完全に休眠期にはいってから。

果樹類・・・2月下旬～3月＝堅雪の時期。

◎コガネムシの防除

旭川市内あるいは近郊で被害が出ています。（主にイチイ）

次図のような虫を見つけたら薬剤による防除が効果的です。



■薬剤による防除

スミチオン乳剤の1,000倍液を1㎡当たり5ℓ程度ジョウロで土中に散布します。スミチオン乳剤以外の有効薬剤としてはスミナイス乳剤、ディブテレックス乳剤・粉剤、カルホス乳剤・粉剤、ビニフェート乳剤・粉剤、ダイアジノン水和剤などがあります。